



2023年4月27日

各位

会社名 株式会社免疫生物研究所  
(コード番号：4570)  
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1  
代表者 代表取締役社長 清藤 勉  
問合せ先 常務取締役業務執行責任者 中川 正人  
兼事業グループ管理本部長  
電話番号 0274-22-2889 (代表)  
URL <https://www.ibl-japan.co.jp>

## 営業外収益、営業外費用、特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2023年3月期連結会計年度（2022年4月1日～2023年3月31日）において、営業外収益（受取利息、業務受託手数料、為替差益）、営業外費用（持分法による投資損失、棚卸資産評価損、貸倒引当金繰入額）、特別利益（関係会社株式売却益）及び特別損失（関係会社株式評価損、関係会社貸倒引当金繰入額及び関係会社事業損失引当金繰入額）の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 受取利息（営業外収益）の内容

当社は子会社などに対し資金の貸付を行っており、当連結会計年度において、個別決算では2,256千円受取利息として計上する見込みです。なお、連結子会社向け貸付金に対する受取利息は連結決算では相殺消去するため、連結決算においては、受取利息は1,356千円となる見込みです。

#### 2. 為替差益（営業外収益）の内容

第3四半期連結累計期間において、営業外収益の為替差益として、個別決算、連結決算ともに3,363千円を計上しておりましたが、為替相場の変動により、当連結会計年度では個別決算、連結決算ともに為替差益が4,559千円となりました。これは2023年3月末時点で当社グループが保有する外貨建資産を同日の為替相場で評価したことで発生した評価益等によるものであります。

#### 3. 業務受託手数料（営業外収益）の内容

当連結会計年度において、当社は持分法適用会社であった株式会社AI Bioから事務処理等を受託しており、これに関する費用を業務受託手数料として2,372千円を営業外収益に計上する見込みです。

#### 4. 棚卸資産評価損（営業外費用）の内容

遺伝子組換えカイコ開発事業における医薬品原料開発について、本日公表の「報告セグメントの変更に関するお知らせ」のとおり、医薬品原料開発を中止することといたしました。このため本開発に係る消耗品類が現時点において使用する目的がなくなったため、棚卸資産として計上していた貯蔵品を減損することとし、当連結会計年度において棚卸資産評価損として14,893千円を営業外費用に計上する見込みです。

#### 5. 関係会社事業損失引当金（特別損失）の内容

個別決算におきまして、当社の完全子会社である株式会社ネオシルク化粧品の業績に基づき、同社への投資額を超えて当社が負担することとなる損失見込み額を第3四半期累計期間に関係会社事

業損失引当金繰入額として10,002千円を特別損失に計上しておりましたが、2022年4月1日から2023年3月31日に係る期間の同社の財務状況等に鑑み、収支が若干改善したことから引当金が減少し当連結会計年度では9,351千円を関係会社事業損失引当金繰入額として特別損失に計上する見込みです。

なお、上記の関係会社事業損失引当金繰入額は、今後の同社の業績の状況により変動いたします。また、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

#### 6. 関係会社貸倒引当金繰入額（特別損失）の内容

当連結会計年度において、当社連結子会社である株式会社 AI Bio 向けに資金の貸付を行っておりますが、当該子会社の財務状況に鑑み、個別決算において関係会社貸倒引当金繰入額として 145,814 千円を特別損失に計上する見込みです。

なお、上記の関係会社貸倒引当金繰入額は、今後の同社の業績の状況により変動いたします。また、連結財務諸表上では全額消去されるため、連結業績への影響はありません。

#### 7. 貸倒引当金繰入額（営業外費用）の内容

当連結会計年度において、裁判所より当社取引先企業の関係会社が破産宣告を受けている旨の連絡があり、当該企業に確認をしたところ事実と判明しましたので、相手先の経営状況及び財務状況に関して検討した結果、当該債権の回収見込みが不確定であるため、当該未回収債権に関して全額貸倒引当を行い貸倒引当金繰入額として 6,697 千円営業外費用に計上する見込みです。

#### 8. 持分法による投資損失（営業外費用）、関係会社株式売却益（特別利益）及び関係会社株式評価損（特別損失）の内容

当連結会計年度において、当社の持分法適用会社であった株式会社 CURED について、当社が保有する投資有価証券の一部売却をしたことにより持分法の適用から除外されることとなりました。これにより連結決算で 45,799 千円、個別決算で 12 千円の関係会社株式売却益を特別利益に計上、及び関係会社株式評価損を連結決算で 174,468 千円、個別決算で 527,947 千円特別損失に計上する見込みです。また、第3四半期連結累計期間に持分法による投資損失を計上しておりますが、同社の2023年3月末までの業績を勘案し、追加で 23,211 千円を計上し、当連結会計年度は連結決算で持分法による投資損失 96,501 千円を営業外費用に計上する見込みです。

また、当社の持分法適用会社であった株式会社 AI Bio について、当連結会計年度末をもって連結子会社となりますが、同社の2023年3月末までの業績を勘案し、追加で 84,074 千円計上し、連結決算で当連結会計年度に持分法による投資損失 107,343 千円を営業外費用に計上する見込みです。

以上